

専門は社会学・コミュニケーション思想史、現在はとくに近代都市と人間との関係に注目し、20世紀初頭の思想変動と旅行文化の変容という二つの面から研究しています。

理論的な研究と事例研究との往復を重視してきました。枠組み=理論をもつことの大切さと同時に、事例を見つけることの難しさと見つけたときのうれしさを経験してきました。皆さんにも、特定の対象と出会ったときのワクワク感を味わってもらいたい。

### 1. 専門演習の目標

「都市と現代文化」にかかわる研究や調査をとおして、思考力とコミュニケーション力を養成することを目標とします。とくに思考は文書を書くことによって論理的に整理され、コミュニケーションもより正確になるので、短くてもよくまとまった文書が書けるようになることを大切にします。

### 2. 専門演習で扱う課題と内容

このゼミでは、観光と旅行の現状と動向という観点を共通の入り口にして、都市という場所とそこに人間が発見してきた意味また現在日々作り出されている意味を、実証的、理論的に研究します。現代都市は「無視すべきもの」に満ちています。道路、電線、看板、そしてなによりも通行する他人。都市に住む人間は知らずしらず、自分に直接関わりないものを無視する力を身につけています。ところが、旅行先では逆に、どんなものでも珍しく見えてきます。旅行者の視点というのは日常と違って場所の意味を見つけ出すものです。

日本は現在、外国からの観光客の誘致に努力していますし、国内でも観光を軸に地域づくりを行っているところがたくさんあります。しかし観光は事業として重要であるばかりでなく、旅行者の視点のように場所の個性や意味の発見という文化的行為としても重要なのです。観光と旅行の視点を入り口にすれば、現代の都市と人間について発見できることがたくさんあります。

### 3. 授業の進め方・内容

3回生前期では、『観光学への扉』を中心に学習します。観光と旅行の動向を踏まえて、都市とコミュニケーション、伝統文化の再生など多くの分析視点と論点を学びます。

3回生後期では、グループ研究と個人研究によって、具体的なテーマ・対象を選んで研究します。

4回生前期には、卒業研究作成にむけてテーマを確定し、後期は作成に集中します。

### 4. 必要とする知識

観光、旅行、都市などに関する情報について、本、新聞、雑誌、テレビ番組などこまめにチェックすることが望ましい。

### 5. 関連する分野・科目・知識

観光文化論を受講することが望ましい。

### 6. テキスト・参考書・機材(受講生が標準的に持つもの)

- ・井口貢編著『観光学への扉』学芸出版社、2008年。
- ・小口孝司編『観光の社会心理学』北大路書房、2006年。
- ・井口、上田、野田、宗田著『京都観光学のスズメ』人文書院、2005年。
- ・岡本伸之編著『観光学入門—ポスト・マス・ツーリズムの観光学—』有斐閣アルマ、2001年。

### 7. 独自に付加する選考方法

なし

### 8. 受講生に望むこと

ゼミはいろいろある科目の一つではなく、大学での学習の中心だと思います。講義などで学習したことを全部ぶつける場でありたい。また日常的な事柄がもっともむずかしいという感覚を共通のスタイルとしたい。